

概要

デンマーク王国

正式国名はデンマーク王国、**The Kingdom of Denmark** です。民主憲法に基づく立憲君主国で、現在はマーグレーテ 2 世女王が国を象徴されています。国旗は世界一古いといわれるダネブロー、赤地に白の十字で、13 世紀後半より使われています。

国歌はクリスチャン 4 世王を讃えた「**Kong Christian stod ved højen mast**」と、国の美しさを唄った「**Der er et yndigt land**」の 2 曲があります。国花はマーガレットです。

地理

デンマークは本土（ユトランド半島、フュン島およびシェラン島）、グリーンランド、フェロー諸島及びその他大小約 500 の島々よりなっています。デンマーク本土は、北緯 54 度から 58 度の間に位置しており、ユトランド半島の南端は、ドイツと国境を接しています。

デンマーク本土の面積は約 43,093 平方キロメートルで、日本の約 8 分の 1、九州よりもやや大きい程度です。本土の北端から南端までは約 360 キロ、西端から東端まで約 400 キロで、数時間のドライブで容易に縦横断することができます。

グリーンランドは、日本の約 6 倍の 2,175,600 平方キロメートルの面積を有する世界最大の島です。フェロー諸島は、スコットランドの北に浮かぶ総面積僅か 1,399 平方キロメートルの小さな群島です。グリーンランド及びフェロー諸島にはそれぞれ内政自治政府があり、デンマーク本国に委ねている外交、国防政策などの分野を除いて自治を行っています。

デンマーク本土は平坦であり、最高地点でも海拔 173 メートル（ユトランド半島）しかありません。河川は少なく、全体的にゆるやかな丘の連続ですが、多くの湖が散在して美しい景観をつくり出しています。

シェラン島をはじめとする諸島およびユトランド半島東部の土地は比較的肥沃ですが、ユトランド半島西部と北部は始終強い西風を受け、ところどころに砂丘が展開しているため、古くから植林、土壌改良による土地改良が行われています。

気候、風土

デンマークの気候は、メキシコ湾流の影響を受け、高緯度（カムチャッカ半島と同緯度）の割には穏やかですが、長い冬の寒さはかなり厳しいと言えます。

統計によれば、最も寒い月は 1 月で平均気温が -0.4°C 、最も暖かい月は 7 月で 16.6°C で、年間平均気温は 7.9°C です。

秋から冬にかけて雨が多く、平均年間降水量は 664 ミリです。湿度は、年間平均 82% で割合低いと言えます。

高緯度にあるため、夏至の頃には日没が夜 11 時過ぎで、明け方 3 時半頃には日の出を迎える一方、冬至の日には午後 3 時半には日が沈み夜が延々と 18 時間近くも続きます。

人口、国民

2000 年の統計によれば、総人口は 533 万人で、ここ 10 年人口の増加は限られています。人口密度は 121 人/ k m^2 で首都コペンハーゲンの人口は約 50 万人です。また、フェロー諸島には約 47,000 人、グリーンランドには約 55,000 人が居住しています。

デンマーク本土およびフェロー諸島の住民は北方ゲルマン民族です。

国語は、デンマーク本土はデンマーク語、フェロー諸島はフェロー語、グリーンランドはグリーンランド語ですが、フェロー人、グリーンランド人ともデンマーク語を第一外国語としています。

宗教

「福音ルーテル派教会は、デンマークの国教会であり、国家によって保護される」と憲法にも規定されており、国民の89%が国教である福音ルーテル派に属しています。デンマークに初めてキリスト教が伝来したのは、826年です。そして、1536年にはルーテル教義が採用され、1849年旧憲法により信仰の自由が保証されました。

略史

スカンジナビア半島からデンマークにかけて居住していた北ゲルマン人であるノルマン人がバイキングとして初めて世界史の舞台に登場するのは9世紀に入ってからです。バイキングとは、ゲルマン民族の大移動も終わり、諸国家が形成されてきた9世紀から11世紀のヨーロッパを主として、貿易上の拠点を確保するため略奪行為で荒し回ったノルマン人に対する総称です。

バイキング時代には、既にデンマークを含む北欧3国に君主制が成立していました。デンマーク王としての名も500年前後から多数残っていますが、中でもゴトフレス王の808年フランス北東部攻撃は史実として記録されています。しかし、一般的には、ゴーム老王（?～ca.958）によりデンマーク王室の基礎ができあがったと言われています。当時のデンマークは大国で、現在のデンマーク本土のほか、ユトランド半島の付け根にあたるシュレスヴィヒ地方およびホルシュタイン地方更にはスウェーデン南部のスコネ地方も含み、また、クヌート大王の頃にはイギリスにも支配が及び、さらに、エストニア、北ドイツ沿岸も領有していました。

14世紀から16世紀にかけて、北欧3国はデンマーク王国の統治下にありました。しかし、その後、デンマークはスウェーデンとの戦いに破れて、スコネ地方をスウェーデンに割譲し、更にナポレオン戦争ではフランス側について敗戦国となり、1814年にノルウェーをスウェーデンに割譲しました。また、ナポレオン戦争後のナショナリズム勃興期に、プロシアにシュレスヴィヒ、ホルシュタインおよびローエンボー地方を割譲して（1864年）、北欧の小国となってしまいました。（北シュレスヴィヒは、第1次世界大戦後の住民投票によりデンマークに帰属しました）。

デンマークは2度の世界大戦で中立を維持しましたが、第2次世界大戦勃発後の1940年4月ナチス・ドイツの侵攻を受けて、1945年5月までドイツ軍による占領を経験したためにその中立外交の理想は破られました。同大戦中、アイスランドは独立し、フェロー諸島はイギリス軍、グリーンランドはアメリカ軍に占領されました。

第2次大戦後の1947年に政権を獲得した社会民主党は、戦後復興にあたり、中立政策を放棄して、NATO（1949年）に加入しました。戦後一貫して政権を維持した社会民主党の下で高福祉政策が推進され、世界でも最も裕福な国のひとつとなりましたが、石油危機後の経済困難から1982年にはシュルター保守党党首を首班とする中道保守連立政権に政権の座を明け渡すことになりました。

シュルター政権は緊縮財政政策を進めるなど経済再建に努めた結果、財政赤字の削減や経常収支の改善に大きな成果をあげましたが、1993年1月、シュルター首相が難民の家族の入国問題から辞任し、ラスムセン社会民主党党首を首班とする左派中道連立政権に変わりました。そして、2001年11月、難民による福祉・犯罪などの諸問題を焦点に、国会選挙が行われ、社会民主党のポール・ニューロップ・ラスムセンから9年ぶりに自由党

デンマーク年表

800-1000 バイキングの活躍

- 826 キリスト教伝来
- 1167 アブサロン僧正、コペンハーゲンの基礎を築く
- 1397 デンマーク、ノルウェー、スウェーデン 3 王国カルマル連合形成
- 1536 新教をデンマーク国教と定める
- 1660 国王憲章制定（世襲専制君主制の確立）
- 1600-1700 スウェーデンとの戦いに連敗し、南スウェーデンを失う
- 1788 フレデリック 6 世による農奴解放
- 1800 デンマーク、ロシアおよびプロシヤと協定して武装中立政策を確立
- 1801 英、コペンハーゲン沖でデンマーク艦隊に大打撃を与える
- 1807 英艦隊、コペンハーゲン攻撃、フランスおよびロシアと同盟し、スウェーデンと敵対関係に立つ
- 1814 義務教育開始
- 1848 絶対王政崩壊
- 1849 憲法発布、二院制議会の設置
- 1864 プロシヤに敗戦し、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン両州を割譲
- 1882 酪協同組合の創設（農業協同組合発足）
- 1917 国民投票の結果、西インド諸島をアメリカに売却
- 1920 国際連盟加盟
- 1933 グリーンランドのデンマーク領土確定近代的社会保障制度の基礎固まる
- 1940 ドイツ軍のデンマーク侵攻
- 1941 対ナチ・レジスタンス運動が組織的となる
- 1943 全国各地で大規模な反独デモ
- 1945 第二次世界大戦終了によりナチスの占領より解放される。国際連合に加盟
- 1949 NATO 加盟
- 1953 憲法改正（議会一院制となる、女子に王位継承権を付与）
- 1960 EFTA 加入
- 1972 国王フレデリック 9 世崩御によりマーグレーテ 2 世が女王に即位
- 1973 EC 加盟と同時に EFTA 脱退
- 1979 グリーンランド自治権獲得
- 1985 自治領グリーンランド EC 離脱
- 1993 EU 発足

1997	アムステルダム条約で、国防、通貨司法・内務、EU 市民権に関して EU への参加留保明記
2000	国民投票で、共通通貨ユーロへの参加却下

政治

立憲君主制をとっており、現在はマーグレーテ 2 世が女王です。議会は 1953 年の憲法改正で、グリーンランド代表 2 名、フェロー諸島代表 2 名を含む、全 179 議席で構成される一院制になっており、選挙は比例代表制を採用しています。国内政治は小党分立型で、単独政党が議会で多数をとったことはありません。政党は社会民主主義あるいは社会主義政党（社会民主党、社会人民党）、資本主義路線の保守政党（保守党、自由党、進歩党、デンマーク人民党）および中間政党（急進自由党、中道民主党）に大別されます。

国際関係

基本方針

NATO、EU、北欧協力体制、国際連合に参加しています。ただし核兵器の持込みは認められません。

EU

1972 年以来 EU（当時の EEC）に加盟しています。しかし 1992 年、欧州連合条約（マーストリヒト条約）を第一次国民投票で却下、翌 1993 年にの 2 度目の国民投票で初めて同条約を批准しました。これにより 12 カ国からなる EU が実現したことになります。ただし、その後も 1997 年のアムステルダム条約で、デンマークは国防、通貨、司法・内務、EU 市民権の 4 項目に対し、留保することを条約に明記しました。さらに 2000 年の国民投票においては共通通貨ユーロへの参加に反対（53.1% 対 46.9%）。この結果、2002 年 1 月より加盟諸国において統一通貨ユーロが導入される際も、デンマークはデンマーククローネを保持することになりました。

国連、NATO、OSCE

これら多数国参加による活動に関してはデンマークの貢献は大きく、旧ユーゴにおける SFOR 要員の派遣、中東欧諸国およびバルト諸国の西欧機構参加の希望を支持するなど、民主政治の促進、平和維持に積極的に働きかけています。

国防

地理的に戦略上重要な位地にあるデンマークは国防体制を NATO を前提にして打ち立てています。徴兵制度があり、対象は 18～32 才の男子、兵役期間は最長 1 年です。最近は女子の有志の参加が目立っています。

経済・産業

デンマークは自由貿易政策を基調とする比較的弾力的な「小回りのきく」経済運営を伝統としています。これは人口が少なく、天然資源も限られているため、輸入原料をもとに高度の技術、デザインを付加して輸出する貿易立国がこの国の宿命となっているためと言えます。

貿易依存度が高く、輸出は GNP の約 30%に当たっています。農業国としての伝統は古く、生産性が高いことで有名です。現在では、輸出品も 7 割以上が工業製品となっており工業国と言えます。

産業構造としては、中企業による製品の特殊化によって国際競争力を維持するものが多く、企業規模も小さく、全企業の 75%以上が従業員 50 人以下の企業であり、従業員 200 人以上の企業は全企業の

5%に過ぎない状況です。しかし、マースクライン（海運）、ノボ・ノルディスク（インシュリン、）、F. L. スミット（ポートランドセメント）、グレートノーザン（電信）などの国際的大企業もみられます。ビール、陶芸品、家具、医薬品なども広く知られています。工業生産の

GNPに占める割合は約20%、農業は5%未満です。

1973年にECに加盟し、貿易相手国のほとんどが西欧諸国です。ドイツ、スウェーデン、イギリスが貿易相手国のトップ3です。各産業部門の中で農畜産業部門は最も生産性、収益性の高い部門で、例えば豚肉輸出は世界第1位であり、機械化、合理化のための投資率および生産性が高く、農家数の減少にもかかわらず（労働人口の約3.2%）、生産は増加しています。農畜産業生産の約7割は、輸出されています。デンマークでは生産部門のみならず、加工、流通、輸出部門においても、協同組合組織が、これらの発展に大きな役割を果たしています。

2000年の経済成長は3.2%、失業率は4.7%でした。現下の最大の課題は景気対策と失業対策で、ラスムセン内閣は新規雇用の創出を目指した税制改革と労働市場改革に努力しています。

2000年のデンマークの対日貿易は輸出147億クローネ、輸入55億クローネで、総貿易額は決して大きくないものの、西欧諸国で唯一の対日貿易黒字国です。デンマークから日本への輸出品の約7割は豚肉を中心とした農産品で、日本からの輸入品の約8割は機械、自動車等の工業製品となっています。